

# ちえふくらう



〒108-0014 東京都港区芝 5-27-5

NPO法人 人生まるごと支援

TEL 03-3453-6210

FAX 03-3453-6208

## 【本人の希望】

『Kさんですが、食事が摂れなくなり、お薬を飲むのも難しくなりました。主治医からは「無理に飲まなくても大丈夫です」と言われました。水分も1日40mg程度です。私たちスタッフもなるべく様子を見に行くようにはしていますが、長い時間はお部屋にいられないので、Kさんがさみしがっているように感じます』とKさんが入居しているホームの看護師さんから電話がありました。

私はKさんのホームに向かう電車の中で、Kさんとのこれまでのことを思い出していました。

Kさんに初めてお会いしたのが2015年12月、Kさんが77歳の時でそれから10年になります。Kさんはスイス人のご主人と結婚して、20代前半にシングルポールで暮らされ、その後スイスでご主人を看取り、30数年ぶりに日本に帰ってきました。日本に戻ると若い頃から夢であったクルーズ船での世界一周旅行を2度され、窓から海の見えるマンションでのんびりと暮らしていました。

が、60代でC型肝炎を発症し、大腸がんも見つかりました。私はケアマネさんからの依頼で初めて訪問すると、Kさん、ケアマネ、姉妹が集まり、姉妹から『私たちも高齢になってきて、あなたの

面倒は見れない、病院の付き添いもできない』と、姉妹の強い勧めで有料老人ホームへの入居を決意された時でした。

そこから私が関わるようになり『三国さん、あなたは私が施設に入っても、自宅でも、最期まで見てくれるのよね。』

『やっぱり自宅で暮らしたいわ』と仰い、施設を解約し自宅で暮らすことにしたのです。それから、大腸がんや脊柱管狭窄症の手術なども経験し、自宅も最期まで暮らせるようにリフォームされたことを、昨日のことのように思い出します。

しかし3年前に脳梗塞で倒れ、左半身マヒになり、退院の際、Kさんご自身が施設で暮らすことを決められました。

これまでのKさんは何でもご自身で決めて来られ、私はそれを叶えるサポート役でしたが、今、目の前にいらっしゃるKさんは、具体的な希望は何ひとつ言われないのです。

Kさんのベッドの横でしばらくKさんを眺めながら、今のKさんにとっての希望が何であるかが、私には具体的に分からないのです。が、Kさんのさみしさ、不安が少しでも軽減されるよう、NPOスタッフも毎日Kさんの傍に寄り添うようにしたいと思います。その中でKさんの希望をキャッチできることあればと思います。

三国浩晃